

「募金・協賛推進特別委員会」 第2回会議 結果概要

1 日 時

平成27年1月27日（火） 10:00～12:00

2 場 所

滋賀県庁本館4-A会議室

3 出欠状況

委員9名中8名出席

出席：北沢 繁和委員長、上村 照代副委員長、歌代 泰和委員、戸田 由美委員、
井上 みゆき委員、八田 敬次委員、奥村 隆明委員、宮川 正和委員

欠席：藤原 麻美委員

4 議事概要

募金推進の方策の検討等について

○事務局が資料1～4ページについて説明した後、次のとおり質疑応答があった。

<委員>

昨年末に、綾羽株式会社が10年間で1億円を大会のために寄付するという話があった。それを考えると、募金の目標額が他県のように4億円や5億円がいいのかということになる。ただし、目標額としていくらがいいのかについては、額の根拠の説明も必要であるし、難しいところである。全体でいくら必要だからこの目標額にしたと説明するのは分かりやすいが、それは難しいとのことであるので悩ましい。

<委員>

今の発言に関連してだが、使途としては、「大会運営経費」「スポーツ施設の整備」「競技力向上」の3つが考えられる。それぞれ必要な経費がいくらであるのか現時点ではっきりとした額を出すのはなかなか難しいとのことであるが、寄付する側から考えれば、全体の目標額と、それぞれ使途ごとに細分化された目標額を示した方がよいのではないか。例えば、困難ではあるとは思いますが、スポーツ施設の整備に全体の2/3であるとか1/2であるとかの振り分けの概ねの基準を示していくのはどうか。

<委員>

やはり、具体的にどれがいくらというのは難しいのか。

<事務局>

先催県の例でいうと、概ね10年間で、大会運営経費については全国障害者スポーツ大会を含めて60～70億円と聞いている。競技力の向上、いわゆる選手強化や指導者の育成で30～35億円ぐらい。これらを合わせてソフト事業で約100億円となる。これらから大会運営経費と競技力向上の比率については、それぞれ2/3と1/3といえる。また、施設整備のハード事業については、元々の施設の整備状況に応じて、県によってバラつきがある。滋賀県では、彦根総合運動場が主会場になったが、この選定の際に主会場選定専門委員会において、事業費が180億円くらいかかるという試算がされている。先催県の例では、施設整備を入れて全体事業費が120～400億円くらいまで幅があるが、滋賀県はこのうち高い方に行くのではないかと考えている。県の施設のほか、市町の施設も整備することになるが、今の額には、市町の施設整備は県の補助金ベースでしか入っていない。

<委員>

それらの財源はどうか。

<事務局>

スポーツ基本法では、国が財政支援をすると規定されているが、実際には、大会運営経費に対して、全国障害者スポーツ大会を合わせても5億円程度の補助である。選手強化については国の補助がなく、totoくじ助成があるが、ほぼ県の一般財源となる。施設整備は都市公園整備など通常の国の支援を有効に活用していきたいと考えている。

目標額をどうするか考える時に、先催県の例ではこのくらいというお話はできるかもしれないが、滋賀県において全体でこれだけかかるから、そのうち募金でこれだけということについて相関関係を作っていくのは、現時点では難しいのではないかと感じている。

<委員>

確かにそのように目標額を設定するのは難しいように感じる。今の考え方は、主催側から目標額を出してくる感じだが、それよりも県民の側から、例えば県民1人当たりがこの大会にいくら寄付していく状態を目指すとかいう形で設定していく方法もある。また、よく滋賀県は1%の県と言われるので、1%をなんとか県民で集めますなど、キャッチコピー的なものも出しながら目標額を設定することも考えられる。

<委員>

前回の会議でも寄付する立場から考えたらどうだろうという事を申し上げた。企業レベルと県民レベルでは違うかもしれないが、一体いくらなら寄付したいと思うだろうか。そういう事を考えると、1000円なのか2000円なのかは分からないが、そのようなアプローチで目標額を出すこと自体は可能なのではないか。例えば、1000円なら、滋賀県では14億円になる。

<事務局>

一方、1人1000円ということで、県民の皆さんに強制的な割当てのように捉えられてしまう恐れもある。計算上の基礎はそうであっても、1人いくらということを表現として対外的に示していくのはどうかということもある。

<委員>

現実には、いくらを目標にするということ自体は必要だと思う。その時に根拠として必要経費から割り出すのか、県民の思いから割り出すのか、いろいろあるということだろう。

<委員>

企業活動をするときには、売上目標がこれだけで、それがこれだけの利益を生まないといけないということを積算して行って、それで売上げが足りない場合は何らかで補てんするという作業をする。目標を設定して達成しなくてもいいのかと考えると、義務化するのはいかがでしょうかと思うが、緩い感じでもダメなのではないかと感じた。積算の根拠というのは必要だと思うし、目標が達成できるのかを段階的に把握したうえで、方策もどんどん考えていかないといけないのではないか。一企業で働いている人間として、ある程度シビアな部分も必要ではないかと思う。

<委員>

寄付をお願いする立場から言うことではないということは理解している。ただ、寄付をする立場から考えたらどう感じるかということで、一人いくらというのは、例えば相場感のようなもので申し上げたもの。

<事務局>

補足説明になるが、今回、募金要綱に書くのは、大会運営経費を除いた目標額とし、大会運営経費を始めたなら、募金要綱を改正して目標額も上乘せする形にすることを考えている。

<委員>

やはり、これくらいのことをするから、募金はこれくらいというのはいるのかもしれない。

<委員>

今回の会議で、目標額を定めるということだけを決めるのか。それとも具体的な額まで今回で決める必要があるのか。

<事務局>

今回は、具体的な額まで決める必要はない。

<委員>

要綱の下に推進計画があるという位置づけなので、まず推進計画があつて要綱にそのエキスを書くという順番になるのではないかと思う。ある程度計画が見えないと、要綱に書く額は言いにくい。9年前の現時点でそのような目標額の設定が難しければ、先ほどの一人当たりのようにする表現の仕方もあるのかもしれない。ただし、ざっくりとでも大会の規模は示しつつやらないといけないのではないかと思う。

<委員>

前回のびわこ国体の時の実績が7億5千万円ということであり、今回はそれを越える目標とするのが一般的ではないか。

<委員>

要綱には、対象者は書かないのか。

<事務局>

要綱には、県内外の個人や企業・団体が対象であるということを書く予定である。

<委員>

先ほど計画から要綱にあげないといけないと申し上げたのは、先催県の例を見ていると90%くらいは企業からの募金である。個人一人当たりいくらというのは、実際とは少し違っている。それを考えると、一人1000円で全体いくらを集めるというイメージは難しいのかなとも思う。

<事務局>

前回のびわこ国体より目標額が低いのはどうかという点では相違がないと思う。次回の会議において相談させていただきたい。

<委員>

後々の大会運営経費もにらんで、全体でどうかということも含めて検討した方がよいかもしれない。

○各委員から資料5～11ページについての説明や、それに伴う意見の発表があった。

<委員>

資料にあるように、1つ目は、寄附者の名前をプレートに入れたモニュメントをつくり、施設に残していくというもの。

その次の植樹イベントについては、大会開催までの時間も一緒に味わっていただくもので、例えば、大会の時に成人を迎える子どもの名前で植樹をして、その成長を確認できるのもいいのではないかと思う。

レイキッズ事業(※1)については、次世代育成ということでアスリートを育てようとされているので、それをうまく使いながら機運醸成をしていければと思った。また、学力だけではない滋賀らしい次世代育成というもので大きく括れば、びわ湖ホールの事業もあるし、伝統工芸もあるが、スポーツについてもその一環として、学力だけではない教育という滋賀らしさが出せるのではないかと考えた。例えばココクール事業(※2)があるが、こういう教育の在り方も実はココクールなんだというように、滋賀のブランドで結び付けられないかと思う。

※1 将来、全国あるいは世界で活躍する未来のトップアスリートを目指す「次世代アスリート」の発掘育成を行うため、平成26年度から滋賀県教育委員会が始めた取組である「次世代アスリート発掘育成プロジェクト」

※2 滋賀ならではの資源や素材を活かし、心の豊かさや上質な暮らしぶりといった滋賀らしい価値観を持つ商品やサービスを、自薦・他薦により広く募り、「選び」「魅せる」ことで、その良さを発信し、多くの方に体感いただき、こうした滋賀の商品やサービスのファンとなっただけのように、平成24年度から滋賀県が始めた取組である「ココクール マザーレイク・セレクション」

次に、寄附付き商品の開発であるが、高島市社協の「募金百貨店」という取組を紹介したい。この取組の特長は、商品自体はいつもと同じ値段であり、新たに寄付金を上乗せしているわけではないところにある。寄付金付き商品という形で販売すれば人の目を引くので、販促効果が上がるというデータもあり、企業にも協力いただきやすい。また、お客さんも気兼ねなく協力いただける仕組みになっている。大手企業であれば、自分で商品のパッケージを寄附付きであるというように作ることができるが、地域の中小企業ではできない。そのため、共同募金会から、この商品は「募金百貨店」に協賛している商品ですよというシールやのぼりを配っている。このようにほとんど負担無く参加いただけるので、いろんな業種に参加いただけて、まち全体として「募金百貨店」になるというコンセプトである。

次に、オークションについては、滋賀県ゆかりのスポーツ選手の私物などをオークションにかけて販売するというもの。

小学生の募金箱コンクールについては、前回申し上げたので割愛する。

また、大学生の巻き込みについては、大学生たちに募金を盛り上げる企画を考えてもらい、その運営経費をクラウドファンディング（※）してはどうかと思った。事務局がやるよりも大学生にやってもらった方が盛り上がる。

※ある目的のために不特定多数の人から、一般的にはインターネット経由で資金を集める行為。群衆（crowd）と資金調達（funding）を組み合わせた造語

また、滋賀県は包括的連携協定を色々な企業と結んでいるが、それぞれの関係を大会にも生かせないかと考えた。なお、企業に寄附をお願いする時は、全部に共通する企画を持っていくのではなく、企業の業種に応じた形をオリジナルで提案しないといけないと考えているので、資料は具体的な企業を想定して書いている。

次に、対談権については、スポンサー特典のひとつとして、知事や滋賀県ゆかりのスポーツ選手と社長が対談する権利を付与して、それを企業の広報媒体に掲載することを許可できないかと考えた。これにより、企業は自身の株主に対してもアピールすることができる。

<委員>

まず、会場周辺に必ず植樹されると思うので、それを利用して、おまけという感覚でなにか付けたらいいのではないかと思った。

また、インターネットを通じた募金であるが、例えばクラウドファンディングは、そんなに何億というものではないが、意外と早く集まるのではないかと思った。

そのほか、電話による募金であるが、テレビでやっていたように電話をかけたら寄付したことになるという簡単なことで寄付できるのがいいのではないかと感じた。

<委員>

植樹して募金に充てるとともに、その樹にタグを付けていつでも見に来られるようにする。

また、タイルを買っていただき、それにメッセージを書きこんでもらい、開会式会場の壁面に貼り付けて募金者がいつでも見られるようにする。

国体出場選手が練習に取り組む様子等を取上げ、動画を配信する。

また、マスコットが決まるまで、選手の方にそれまでの間、広告塔としてPRしていただくほか、スポーツ教室を行い、県民と触れ合う機会を設ける。

なお、自分も何かをしたいと皆さんに感じていただける仕組みづくりが必要であるが、まだ不足している。いかにして大会は選手だけのものではなく県民全員のものと捉えてもらう部分について、まず取り掛かるべき。最初はお願いばかりではなく、自主的に募金したくなるような雰囲気醸成に重点をおいてはどうか。

<委員>

いろいろな競技のホームページを見てみたが、ほとんど情報がない。クローズな世界で競技者だけの世界という感じであった。高校生や中学生の競技日程や結果を含め、大会の状況が国体に限らずよく分からなかった。例えば、県内でも南郷中学校が全国1位(※)になったが、このことがほとんど分からない。アマチュアで公開できない情報があるのは分かるが、許される範囲で情報を発信してファンづくりをしていかないといけないのではないか。そのため、いわゆる開けたくなるようなホームページを作って、応援する人にクリック募金をしてもらうのがいいのではないかと思った。

※「平成26年度全国中学校体育大会・第41回全日本中学校陸上競技選手権大会」の女子4×100mリレーで南郷中学校が優勝

次に、山口県の赤い羽根募金で実施しておられるが、ゴルフ場にあまり人が来なくなったので、地域の皆さんに開放して健康づくりをしてもらって、その参加費にプラ

スして募金をしてもらおう取組をされている。例えば、競技施設を見学するイベントなどをして、そこで募金を貰いながら、あわせて競技施設の現状を分かってもらうのはいかがでしょうかと考えた。

<委員>

寄付結果のフィードバックについてであるが、自分たちの寄付が使われたことの報告がしっかりされなければならないと思う。滋賀県のふるさと納税でもしている取組であるし、是非取り入れていけばよいのではないかと。

また、ロイヤルコペンハーゲンにイヤープレートというものがあるが、例えば信楽の作家と組んで毎年1つ作って行って、これを買っていただくような取組があれば、これから9年あるので長続きするのではないかと考えた。

ほかに、いろんなマラソン大会でお金を払って出場されている例もあり、滋賀県でも県内のマラソン大会の出走権を特典にするという方法もあるのではないかと。

次に、集中期間の設定であるが、長い募金活動になるのでメリハリが必要ではないかと考えた。例えば、大会まであと何日という区切りのいい日からスタートして1週間や1カ月を集中期間にするということも募金の方法として必要ではないかと考えた。

また、運動施設等の利用に伴う募金であるが、イベントのほかにも、施設を日常的に利用されている方に、その方にとって身近なアスリートのための募金をしていただくのもいいのではないかと考えた。いろんな運動施設でそういった募金活動を強化していくことも必要ではないかと。

<委員>

買物をする際に、レジで購入額の何%かを募金すると、お店側も同額を寄付するという例があった。例えば、年間10億円の売り上げがあれば、1%の寄附で、双方を合わせて2000万円ということになる。

施設の整備については、本体の分だけでなく、プラスアルファのところになるが、修景や文化化を図るための寄附を募るといったものもある。寺社とかでもあるように、例えば煉瓦とかタイルとかに名前を入れるというのもいいのではないかと。昔、滋賀県で施設の設計費の1%を文化に充てるという事業があったようなように記憶しているが、そのようなものもどうかと思った。

“いいね”募金については、アスリートに応援者になっていただき、そのメッセージに“いいね”をクリックすることで寄附していただくもの。なお、最近、和歌山県がスマートフォンアプリのLINEで国体のマスコットキャラクターのスタンプを売り出して、かなり売れているとの報道を見たので、そういうものもあればと思った。

また、広報としっかりとリンクして機運醸成を図るというのが必要であると思う。

さらに、寄附税制のメリットをしっかりと打ち出していくことも重要である。

ふるさと納税で寄付した場合、実際は税金でどれだけ控除されるかというシミュレーションをするホームページがあり、試してみたところ、実質的な負担額は少なかった。例えば、給与収入額500万で、3万5000円を寄附した場合、2万9350円が所得税と住民税で控除され、実質的な負担額は5650円だった。ふるさと納税を高めていこうという動きがあるし、県民だけではなく、県外者にも寄付をしていただく働きかけが必要である。近江商人というべき人々が県外で多く事業をやっておられるので、そういうところに呼び掛けていくということも考えていく必要がある。

また、主会場の彦根のゆるキャラである「ひこにゃん」グッズの販売もできないかと考えてみた。さらに、早く競技種目等を決めて、地元の盛り上げをつくっていく必要がある。

<委員>

観光大使のように、滋賀県出身のアスリートや、他の分野で活躍されていてこの趣旨に賛同していただける全国的に名の知れている方を大使に任命して、例えばブログやフェイスブックでPRしていただくようなことができないかと考えた。

あとは、音でもイメージできるようにキャンペーンソングを作ってもいいのではないかと思う。PR大使と連動できるのが一番いいが、キャラクターやキャンペーンソングなどのように、何かイメージできるものがあればいいと思う。びわこ総文祭(※)のアナウンスコンクールの審査をさせていただいたが、高校生も文化部とスポーツで部活が分かれているものをうまく融合できるとよいと感じた。滋賀県は、文化・芸術もスポーツも両方大切にされているというイメージづくりができないかと思っている。

寄付のほとんどは企業からだが、個人の寄付を伸ばすのも大事。一人ひとりの金額は少ないが、みんなが出して大会を作ったということが、自分たちの誇りにつながるという意味でも大事ではないか。

※平成27年7月～8月に滋賀県で開催される第39回全国高等学校総合文化祭

<委員>

実際の寄附は、企業からの寄附が8割9割を占めるという中で、企業にどのように理解いただくかを考えたときには、トップの判断が重要である。例えば、事務局職員とともにトップアスリートの方々も同席していただいた上で説明をして、トップの理解をいただくのというのものもあるのではないかと。大口寄付をいかにいただくかということ、県民の方々の機運を高めるためにいろんな事をやっていくことの2つについて、ターゲットを分けてやっていくのかなということも思った。

<委員>

「日本スポーツマスターズ2007びわこ大会」のために、平成18年、19年にゴルフ連盟等に協力いただいて、来場者に1人10円程度の協力金を頂いて、最終的に県体育協会が1000万円の寄附を頂いた例があるので、このような協力金をお願いするというものも考えられる。

寄附付き商品であるが、山口県では「トップアスリート・バナナ」という商品を販売したり、北海道でも「スポーツ応援米」を販売し、その売上げ1kgにつき1円寄附してもらっている例もあるので、例えば、滋賀県も「みずかがみ」などで行うということも可能ではないか。

また、先日、全国男子駅伝で広島に行ったが、広島県人会の方に熱心に滋賀県のチームを応援していただいた。県人会の方は、滋賀県に対する熱い思いを持っておられる方が多いので、他の県人会の方も含めて滋賀県がスポーツで頑張っている姿や活躍する姿を発信していければいいのではないかと。

<委員>

琵琶湖を一周するサイクリングには、約1000名の方に全国から来ていただいている。参加料のほかに任意で500円のチャリティーをしていただいております。滋賀県のマザーレイク応援基金か東北の復興支援に寄附するかを選んでもらっている。いろんなイベントをするときの募金は、金額はそれほどではないがしっかりと協力をいただける。

<委員>

先日のびわこレイクサイドマラソンでは、参加者が2000名と聞いている。任意で500円のチャリティーがあったが、例えば全員が払ってもらえると100万円になる。この寄附も国体にいただけないかなと思った。マラソン大会は、喜んで参加されて、生き生きして走っておられるので、国体にも協力いただけるとありがたい。

<委員>

他県でも市民マラソンがどんどん増えている。例えば、京都では、ゼッケンに支援先ごとに色分けしたシールを貼っているような例もある。

○事務局が資料12～15ページについて説明した後、次のとおり質疑応答があった。

<委員>

募金の趣旨・意義について、大会開催の機運醸成と考えると、寄付の目標を大会の必要経費だけでアピールすることとは辻褄が合わない。大会に係る必要経費の総額を示したとしても、実際の寄付に際しては、それをポジティブに捉えるメッセージの方が、言い換えると不足経費の寄付を募るというマイナス側からでなく、大会開催の参加方法として寄付もあるというプラス側から捉えるメッセージの方がいいのではないか。

<委員>

前日も申し上げたが、この募金というのは県民や企業への呼びかけであるべきではないか。県民と書くとこの委員会からの目線になってしまうが、県民や企業にとっては、大会を成功させようとか、いい大会にしようということである。大会を推進するときの趣旨文に反映されるべきなのかもしれないが、ぜひ寄付したくなるような趣旨を前面に掲げていきたい。趣旨とか意義は、要綱にしっかりと書いてもいいのではないか。

また、計画案において、具体的な取組をいろいろ書いていただいているが、実際に全部していくのは大変だと心配になった。これらの取組を成就するためにもしっかりとした推進体制が必要だと思う。

<事務局>

趣旨や意義については、要綱の一番最初を書くことになる。計画では、それを少し噛み砕いて、もう丁寧に書くつもりをしている。募金の基本的な部分・概要を書く要綱には、なぜその募金をするのかということを明記しなければならない。

<委員>

推進体制が事務局だけになっては大変である。先催県はどのような体制か。

<事務局>

事務局を中心に準備委員会の構成員の方も一緒になって推進している。滋賀県でも、準備委員会には多くの機関・団体さんに参画していただいております、その加盟団体や会員の方も含めて一緒に推進していくための協力をお願いしていきたいと考えている。

今年5月末に予定している準備委員会の総会において決議いただく際にもしっかりと協力を呼びかけていきたい。

<委員>

県だけでなく、市町も準備委員会のメンバーとして入っている訳だから、全部県のために使われるというのでは、意気込みが違ってくる。

<事務局>

競技力向上については、県教育委員会事務局において、この3月に市町も参加して競技力向上対策本部が設立される予定であり、こちらを通じて募金を必要な事業に充てていく予定である。施設整備については、県立施設もあれば市町立施設もあるので、どのようにするのかは難しいところがある。市町のスポーツ施設の整備については、通常は県単独での補助はなく国の補助制度を活用していただくが、国体に向けた改修等については、県単独の補助制度を創設することとし、その概要を市町に示させていただいたところである。この点については、次回、ご相談させていただきたいと思っている。

<委員>

会場の修景を含めた植樹などに充当することも考えられるし、全国障害者スポーツ大会を念頭においた充て方も考えられる。

<事務局>

先ほど、広報が大事だという話が出たが、この3月に広報・県民運動専門委員会をスタートさせる。広報の基本方針や計画を作っていくわけだが、まずは、我々の考える範囲でパンフレットやのぼり旗などによる広報をしていく予定である。今後は、広報・県民運動専門委員会とこの募金・協賛推進特別委員会との連携もしっかりと考えていきたい。

<委員>

広報ともしっかりと連動していただきたい。

以上